

<調査対象>

◎調査期間：平成28年6月下旬～平成28年7月上旬
 ◎調査対象：当会情報連絡員（業界組合）58団体

（回答 50団体 ・製造業：31団体中25団体
 ・非製造業：27団体中25団体）

<結果のポイント>

(1) 円高の影響について

年明け以降円高が進行し、6月に入ってから英国の欧州連合離脱問題やFRBの利上げ見送りなど、不安定な国際情勢の中で、その進行が加速していた。そこで、現状の為替水準が県内の中小企業者にどのような影響を与えているのか、業界組合に聞いてみたところ、次の通りであった。

○全業種では、「影響はない」が50.0%と多く、次いで「悪い影響」が46.0%で、「良い影響」は4.0%と僅かであった。輸入原材料やエネルギーコストの低下といったメリットは少ないようである。

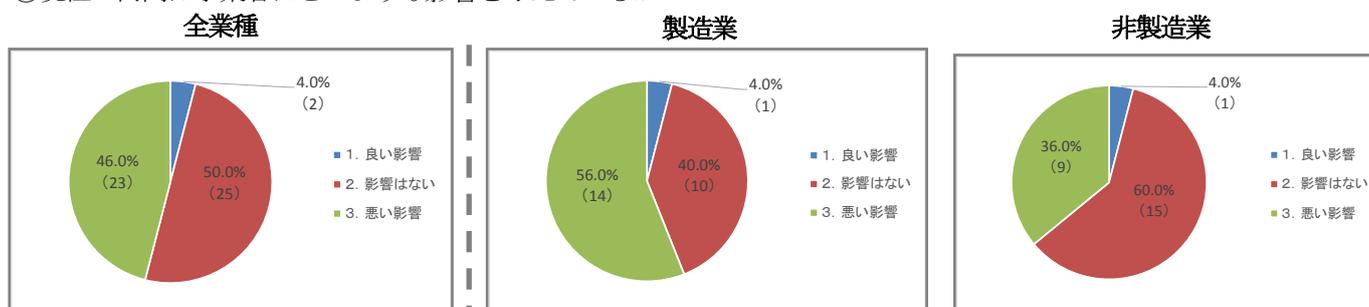
(2) 業種別詳細

○製造業においては、「悪い影響」との回答が56.0%と、「影響はない」(40.0%)よりも多かった。製造業は直接的にも間接的にも輸出に関わる業界が多いからだと考えられる。「悪い影響」との回答は、鉄鋼・金属製品製造業、一般機械器具製造業、繊維工業、陶磁器製造業、金箔製造業、木材・木製品製造業で見られ、その理由は「取引先の輸出減少による受注減少」、「ドル建て取引による為替差損」、「輸出企業の業績悪化による景気の減退」、「取引先からのコスト削減要求強化」などであった。

○非製造業は、全業種と同様「影響はない」との回答が60.0%と、「悪い影響」(36.0%)よりも多かった。輸出に関わる業界が少ないからだと考えられる。「悪い影響」との回答は、旅館・ホテル業、燃油小売業、一般機械器具・各種商品・事務機事務用品卸売業、運輸業で見られ、その理由は「取引先の業績悪化による受注減少」、「外国人観光客の減少」、「外国人観光客の消費の低下」などでであった。

○「悪い影響」への対応としては、「差別化商品の開発」といった前向きな声もあるものの、製造業、非製造業ともに「対応が取れない」が最も多く、経営資源が脆弱で、様々な対応が取れない中小企業の姿が窺える。

①現在の円高は事業者にどのような影響を与えているか？



② ①において「悪い影響」と回答した理由

製造業

取引先の輸出減少による受注減少	6
ドル建て取引による為替差損	3
輸出企業の収益悪化による景気の減退	2
取引先からのコスト削減要求強化	2
外国人観光客の減少	1
外国人観光客の消費の低下	1
安価な外材の増加	1
価格競争力の低下	1
その他	4

非製造業

取引先の業績悪化による受注減少	3
外国人観光客の減少	3
外国人観光客の消費の低下	2
仕入単価安からの売上減少	1
景気の悪化による需要の低迷	1

③ 「悪い影響」への対応方法

製造業

対応が取れない	5
人件費以外のコスト削減	3
内需喚起のための差別化商品の開発	2
省力化・自動化投資	1
新事業開発	1
円高による原材料・エネルギーコストの削減	1
国内生産の縮小	1
海外生産の強化	1

非製造業

対応が取れない	4
取扱品目の拡充	2
販路拡大	1
インバウンド整備	1
提案営業強化	1
特別値引き	1
低価格商品の開発	1